

令和4年度 ICT を活用した自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究  
成果報告書

実施機関名（兵庫県教育委員会）

1. 問題意識・提案背景

(1) 特別支援教育における本県の推進計画に基づく問題意識

ICT 機器の効果的な活用による障害の状態等に応じたコミュニケーションの方法等について、兵庫県特別支援教育第三次推進計画（平成31年度～令和5年度）に位置付け推進してきたが、iPad等を活用したアセスメントや自立支援のためのコミュニケーションツールとしてのICT活用の在り方の検討、通級による指導における教職員のさらなる資質向上等による、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められている。

評価検証委員会からは、次のような指摘を受けている。

- ア 作業、姿勢・動作やコミュニケーション等について、自立活動の指導内容や指導方法の充実を図る必要があるのではないか。
- イ 障害のある幼児児童生徒の多様な意思疎通等の手段が確保されるよう、ICT機器（パソコン、タブレット型端末、電子黒板、音声認識ソフト等支援ツール、点字プリンター等）の効果的な活用に関する調査研究を進め、小・中・高等学校等へ成果を普及していく必要があるのではないか。
- ウ 通級指導担当教員には、小・中・高等学校における指導の連続性を踏まえた教育課程、指導内容や効果的な支援の他、担任との情報交換による指導効果の通常の学級への波及、将来を見据えた関係機関等の連携にかかる情報等の習得が求められるのではないか。

(2) 社会情勢を反映した特別支援教育に求められることへの問題意識

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校が1ヶ月以上にわたる臨時休業を余儀なくされた。そこで児童生徒の学びを止めない取組が一層推進され、GIGAスクール構想の着実な実施に向けた1人1台端末や入出力支援装置の整備が進められた。

兵庫県教育委員会では、県立特別支援学校のICT環境の整備を重要課題と捉え、迅速かつ全県一斉に整備した（表1）。特に、入出力支援装置については、県内各市町においても需要が高く、国の緊急経済対策を活用し、整備している（神戸、尼崎、西宮、伊丹、宝塚、明石、加古川、稲美町、三木、川西、小野、三田、姫路、宍粟、南あわじ、南あわじ・洲本小中学校組合）。

表1 兵庫県立特別支援学校へのICT機器整備状況

ICT機器	整備内容
大型提示装置	全校(27校)の全学級に配備
学習支援アプリ	22校の3,000人に「Classi」を、3校の6人へ「スティィアプリ」を配備
入出力支援装置	18校に点字ディスプレイ、視線入力装置、ボタンマウス、スイッチインターフェース等導
タブレット型端末	経済支援を要する家庭にLTE機能付きのタブレット型端末を貸与

このような ICT 機器の整備の急速な進歩を踏まえ、特別支援教育に携わる教職員は手探りながらも、障害のある児童生徒への ICT を効果的に活用するなどして学習保障に取り組んできた。

#### ア 知的障害特別支援学校の教員

- ・学部や学年・学級を単位として、手作り教材を作成し YouTube や学校のホームページへ限定公開した。
- ・学校の臨時休業中に、1校で500本を超える動画を作成した。
- ・動画の長さや配信時間を学校の授業時間に合わせて定時に配信し、児童生徒の生活リズムを整えるための工夫を行った。(自立活動の区分：健康の保持、心理的な安定)。
- ・料理のレシピや体操など、親子や家族で取り組むことができる内容を扱い、他者との関わりを意図的に作った。(自立活動の区分：人間関係の形成、身体の動き)。

#### イ 聴覚障害特別支援学校の教員

- ・絵本の読み聞かせに手話を付けた動画 DVD を作成して家庭へ郵送し、ICT 機器を活用した視覚教材の開発を行った(合理的配慮：情報保障)。
- ・感染症対策により多くの人がマスクを着用することにより、読話や表情からの情報を得ることに困難が生じ、感覚の補助や代行手段の活用のための自立活動を模索した。(自立活動の区分：環境の把握)

#### ウ 小・中学校等の特別支援学級担当教員

- ・特別支援学校のセンター的機能を効果的に発揮するため、地域別、機能別に示した「支援マップ」を参考に、特別支援学校と連携し、ICT 活用による指導を模索した。
- ・特別支援学級担任が家庭訪問してプリント学習を進めるなど、ICT 活用によらない指導も多く行われた。
- ・通級による指導においては、臨時休業が新年度の開始時期と重なったこともあり、必要な指導・支援の開始にも遅れが見られた。

以上のことから、臨時休業中の各学校の児童生徒への指導・支援については、各障害種や学校種等によって、ICT 機器の活用や自立活動の指導に課題が残ったと考える(表2)。

表2 学校種・障害種等ごとの臨時休業中への指導・支援から見てきた課題

学校種	障害種・指導形態等	課題
特別支援学校	知的障害	児童生徒の ICT 機器の活用への理解や経験の不足
特別支援学校	肢体不自由	児童生徒の ICT 機器操作やマッチングの不足
特別支援学校	聴覚障害	音声情報に変わる代替措置の不足
小・中学校	特別支援学級	指導教員の相談体制の弱さ等による指導力不足
小・中・高校	通級による指導	対面による指導以外の指導体制の確立不足

感染症対策による集合型や密を避ける手段の一つとして ICT が果たす役割も多く、中央教育審議会答申(令和3年1月)においても、「個別最適な学び」において ICT 環境の活用による「個に応じた指導」の重要性、「協働的な学び」として ICT の活用による空間的・時間的制約を超えた学びの充実等が示されている。本県においても ICT 機器の一層の活用促進に向けた環境づくりと、指導する教職員の指導力を向上させていくことが重要となる。

## 2. 目的・目標

### (1) 目的

ICT 機器の効果的な活用を進める中で、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための同時双方向通信による遠隔システム（以下、「遠隔システム」という）を利用した自立活動の指導及び遠隔システムを活用した通級による指導について研究し、障害のある児童生徒の学びの保障と ICT を効果的に活用した自立活動の指導に関する教員のさらなる資質向上に資する。

#### (具体策)

(ア) 知的障害等に対する理解不足や経験不足への対応として、

- ・知的障害特別支援学校における、遠隔システムを活用した自立活動の指導の効果と課題を検証し、好事例を収集・発信することで、県内すべての特別支援学校のみならず特別支援学級への指導・支援の参考とする。

(イ) 肢体不自由等の機能障害のある児童生徒への支援における ICT 機器操作の障壁となる ICT 機器のマッチング不足やその扱いが不慣れであることへの対応として、

- ・肢体不自由のある児童生徒の視線入力装置等の入出力支援装置の活用による自立活動の効果的な指導に対する外部専門家からの遠隔による指導・助言を活用する。
- ・肢体不自由のある児童生徒への指導を、学校・学級間で同時双方向的につなぐことで、教員の指導力向上や児童生徒の学習環境の広がりを進める。

(ウ) 教員の ICT を活用する際の指導力不足等への対応として、

- ・通級による指導において、従来の対面による指導に加え、遠隔システムによる指導を一部取り入れることについて効果の検証を行い、物理的距離による実施回数の制限の補完や通常の学級における日常的な指導へつなげるための提言を行う。
- ・通級による指導のうち、聴覚障害特別支援学校における地域の小・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒への指導と、高等学校における LD、ADHD 等の指導に焦点を当て、それぞれの学びの段階における指導を整えるとともに具体的に実践し、その効果を検証する。

### (2) 目標

本研究から得られる成果を障害種別・指導形態別にモデル化することにより、本県のどの市町・どの学びの場においてもその研究モデルを活用できるよう、効果的・効率的かつ組織的な自立活動の指導体制を構築する。そして、すべての児童生徒の学びを達成させる仕組みを整備する。

#### (具体策)

- ・指定校における障害種別・学校種別の研究成果を、研究発表会やその後の県教育委員会のホームページに公開して視聴を呼びかけ、好事例として発信・普及する。
- ・検討会議や研究発表会、研究指定校の取組等に、特別支援教育コーディネーターや

「HYOGO スクールエバンジェリスト」（本県で養成し認定した、教育への深い理解と、その実現のための授業スキル・ICT活用スキルを持つ教員）などの特別支援教育やICTの専門的な知識を有する教員を参画させることにより、参画した教員がその研究内容や成果を広げることで、児童生徒や地域の実態に応じた指導・支援を行う。

※兵庫県教育委員会で、新しい時代に求められる教育への深い理解と、それを実現するための授業スキル・ICT活用スキルを持つ教員を養成し、認定した。

- ・市町内の学校の窓口として、教育事務所単位で任命された小・中学校の特別支援教育コーディネーター代表である「エリアコーディネーター」（通常の学級等における授業改善担当）、教育事務所に配置する「学校問題支援チーム専門員」（特別支援学級等における指導改善担当・特別支援学校の管理職等経験者）を中心に支援体制を整える。そして、これらの目標・目的を達成することで、本県の特別支援教育の推進と、教員の自立活動の指導及びICT活用指導力の向上に取り組む。

#### 【県教育委員会の取組】

##### ア ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会議の開催

県内の学校における特別支援教育の推進に向けて、自立活動の円滑な実施と遠隔システムの体制の整備について検討するため、学識経験者、福祉機関、教育関係者、保護者、行政関係者からなる会議を設置し、遠隔システムを活用した自立活動の指導等について協議する。

##### イ 自立活動リーダー育成講座（研修会）の実施

兵庫県立特別支援教育センターにおいて、兵庫県教職員資質向上指標に基づいた、特別支援学校における自立活動のリーダーを育成する研修を実施する。

##### ウ ICT活用講座（研修会）の実施

兵庫県立特別支援教育センターにおいて、基礎講座では、特別支援教育における個に応じたICTの効果的な活用や使用上の留意点、環境整備について研修を実施する。実践講座では、個別の課題に応じた指導・支援に向けた教材コンテンツの作成を通して体験的に学ぶ研修を実施する。

##### エ ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業研究発表会の実施

指定校における研究の実践発表を通して、自立活動の指導や遠隔システムの活用について協議を行う。

##### オ 先進校視察

遠隔システムを利用した自立活動の指導や教育相談等の工夫を学び、本県内教職員のICT活用及び指導力の向上に資する。

（令和4年度：1校、岡山県健康の森学園支援学校）

## 【研究指定校の取組】

### ア 知的障害特別支援学校における調査研究

兵庫県立特別支援学校3校を研究指定し、以下の内容を実施した。

- ・各教科等や特別活動等と自立活動の指導とを合わせた指導において、主指導者と複数の教室を遠隔システムでつなぎ、各教室に分かれての一斉指導の研究
- ・児童生徒の学習の様子を動画に編集し、般化に向けた家庭との効果的な連携方法についての研究
- ・遠隔システムを活用した教育相談の実施

### イ 肢体不自由特別支援学校における調査研究

兵庫県立特別支援学校3校を研究指定し、以下の内容を実施した。

- ・知的障害と肢体不自由を併せ有する児童生徒への指導において、教員が外部専門家から定期的に遠隔による指導を受け、児童生徒が視線入力装置等を活用してコミュニケーション力を向上させる方法についての研究
- ・遠隔システムを活用した、指導と評価についての研究

### ウ 聴覚特別支援学校の通級における調査研究

兵庫県立特別支援学校3校を研究指定し、以下の内容を実施した。

- ・遠隔システムとICTを活用し、課題への即時対応や、通常の学級での指導への応用など、きめ細かな指導につなげるための方策や、児童生徒の学習の定着をより強化する方策についての研究
- ・難聴児への支援において、聴覚特別支援学校が中核的な機能を有するような全県でのサポート体制整備に向けたモデルの構築

### エ 高等学校の通級における調査研究

兵庫県立高等学校1校を研究指定し、以下の内容を実施した。

- ・遠隔システムによる指導にICTを効果的に組み合わせ、生徒の卒業後を見据えたコミュニケーションスキルの獲得・向上を目指すきめ細やかな指導を行う方策や生徒の学習の成果の定着をより強固にするための方策について研究する。
- ・高等学校における通級による指導を希望するすべての生徒が、どの学校に進学しても通級による指導を受けられることができるような兵庫県版モデルを構築するための遠隔システムの活用効果の検証

### 3. 実施体制

#### (1) 企画（検討）会議

##### 【ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会議】

#### ア 検討会議委員一覧

No.	分野	所属・役職
1	学識経験者	関西学院大学教育学部教育学科・教授
2	学識経験者	兵庫教育大学大学院・准教授
3	小学校代表	西脇市立楠丘小学校・校長（兵庫県小学校長会・副会長）
4	中学校代表	尼崎市立園田東中学校・校長（兵庫県中学校長会・副会長）
5	特別支援学校代表・研究指定校	兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校・校長（県立特別支援学校長会・会長）
6	研究指定校	兵庫県立むこがわ特別支援学校・校長（研究指定校・校長）
7	研究指定校	兵庫県立神戸特別支援学校・校長（研究指定校・校長）
8	行政関係者	小野市教育委員会教育指導部学校教育課・主幹
9	保護者代表	特別支援学校PTA 連合協議会・会長（兵庫県立播磨特別支援学校・PTA 会長）
10	関係機関代表	公益財団法人兵庫県手をつなぐ育成会・理事長

#### イ 協議内容

実施日等	取組内容	協議のポイント
第1回 （対面）  令和4年 6月17日 （金）	【報告】 事業説明及び昨年度の取組  【協議】 ICTを活用した自立活動の指導の充実と好事例等の共有	・子どもの能力を伸ばしていくためのICT活用の視点とその必要性 ・障害のある子どもの自己実現のため、自立活動の「自立」とは何を意味するかを考える視点
第2回 （オンライン）  令和4年 10月24日 （月）	【報告】 HYOGO スクールエバレッジリストによる実践（小/特別支援学校）、県外視察  【協議】 情報の一元化を進める「ひょうごつながる e-book（仮称）」について	・事例にたどり着くために検討したプロセスこそが各教員が望む情報であること ・自立活動の大切さ及び魅力について、しっかりと伝えること
第3回 （オンライン）  令和5年 1月30日 （月）	【報告】 研究指定校の成果報告  【協議】 情報の一元化を進める「ひょうごつながる e-book（仮称）」について	・特別支援学級担任の入れ替わりの多さに鑑み、自立活動とは何かを丁寧に示す必要性 ・活用を促進するチラシ構成と啓発の重要性



## (2) 研究指定校

### 【研究指定校一覧】

・知的障害部門	3校（姫路しらさぎ、むこがわ、あわじ特別支援学校）
・肢体不自由部門	2校（西はりま、神戸特別支援学校）
・聴覚障害部門	3校（神戸聴覚、姫路聴覚、豊岡聴覚特別支援学校）
・LD、ADHD等通級部門	1校（阪神昆陽高等学校）

各研究指定校がテーマを設定し、年3回外部講師を招いての講義・事例検討等を行い、研究に取り組んだ。また、その一部をオンラインで開催した。

#### ア 知的障害部門の取組

研究指定校	研究取組内容
兵庫県立 姫路しらさぎ特別支援学校	「自立活動チェックリスト」や「個別の指導計画作成手順シート」等を活用し、効率的に作成と効果的な実践につなげる。地域支援では、遠隔システム等を活用し、事例に沿った計画作成や実践の支援を行う。
兵庫県立 むこがわ特別支援学校	自閉症児に対するアニメーション動画を利用したソーシャルスキルトレーニングや、遠隔システムによる保護者支援と外部専門家からの指導助言を受ける。
兵庫県立 あわじ特別支援学校	始業式や終業式、授業（音楽）を家庭とオンラインでつなぎ交流する。その際、DropTalkアプリを利用し、表出コミュニケーションの助けとする。

#### イ 肢体不自由部門の取組

研究指定校	研究取組内容
兵庫県立 西はりま特別支援学校	指導の様子を動画や写真に撮り、外部専門家へ相談する。また、自立活動の指導動画を教材として作成・公開し、家庭と共有する。
兵庫県立 神戸特別支援学校	自立活動の授業改善と自立活動「身体の動き」について、来校指導及び遠隔指導による職員研修を実施する。

#### ウ 聴覚障害部門の取組

研究指定校	研究取組内容
兵庫県立 神戸聴覚特別支援学校	遠隔システム交流に向けて情報の伝え方を考えさせ、機器を通じた聞こえの自覚を図らせる。そして他の通級生と共に活動する経験を通して、仲間意識を育ませる。
兵庫県立 姫路聴覚特別支援学校	1名又は2名同時に通級による指導を受け、ホワイトボードを用いて、発信受信の確認を瞬時にやり、情報保障を図る。事後学習3では、遠隔システムでの通級による指導の振り返りを行い学習効果を確認する。
兵庫県立 豊岡聴覚特別支援学校	対面と遠隔システムによる指導を併用し、生徒の語彙の拡充とコミュニケーション向上を図る。外部専門家から指導助言を受け、担当教員の通級による指導の専門性向上を図る。

#### 4. 取組概要・成果（取組全体の概要図は別途参照）

- (1) 遠隔でのやりとりを含めた、児童生徒の実態把握（障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境など）の在り方について

##### 【自立活動リーダー育成講座、効果的な ICT 活用講座（基礎・実践）の実施】

兵庫県立特別支援教育センターにおいて、自立活動のリーダーを育成する特別支援学校教員の中核を担う教員の専門性の向上に必要な知識・技能と、ICT を身近にかつ専門的に取り扱う特別支援学級や特別支援学校等教員を中心とした研修講座を実施した。受講者の実態に合わせて講座編成をし、自立活動と ICT 活用との双方の専門性向上に着目した内容で行った。

自立活動リーダー育成講座の実践発表では、作成されたアセスメントシートを用いて具体的な事例を基に、中心課題の設定などを学ぶことができた。効果的な ICT 活用講座（基礎・実践）では、ICT 活用に関して苦手意識がある受講者のモチベーション向上と、実践講座を選択した教員の教材コンテンツ作成スキルの向上につなげることができた。

以下に、実施状況や概要を示す。

##### (ア) 自立活動リーダー育成講座（研修会）の実施

日 程：令和4年6月16日（木）10:00～16:00

会 場：兵庫県立のじぎく会館大会議室 201 号室

参加者数：41 人

月 日	タイトル	概 要
6 月 16 日	個に応じた教育課程の編成と自立活動の指導	学習指導要領から自立活動の指導の意義と指導の基本を整理し、指導すべき事項を明確にした自立活動の指導について実践事例を交えて学ぶ。

日 程：令和4年8月16日（火）10:00～16:00

会 場：兵庫県福祉センター1階多目的ホール

参加者数：41 人

月 日	タイトル	概 要
8 月 16 日	特別支援学校における自立活動の実践（実践発表）	自立活動の実際について、実践発表や各受講者が持ち寄った実践事例の協議資料交流を通して主体的に学ぶ。



指標別受講者評価 <自立活動リーダー育成講座>

(4:あてはまる、3:おおむねあてはまる、2:あまりあてはまらない、1:あてはまらない)

No.	受講者評価の視点	6/16 評価平均	8/16 評価平均
1	「学習指導要領の目標や内容に基づき、児童生徒の実態に応じた授業を設計することができる」に関する資質向上に役立つ内容であった	3.8	3.9
2	「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組むことができる」に関する資質向上に役立つ内容であった	3.7	3.7
3	「特別な配慮を必要とする児童生徒の学びの過程において生じる困難さに対応できる」に関する資質向上に役立つ内容であった	3.7	3.8
4	校内における自立活動のリーダーとして必要な知識・技能をさらに身につけることができた	3.6	3.7
5	幼児児童生徒の実態に応じた特別の教育課程とその編成のポイントについての理解が深まった	3.6	3.9
6	「教育課程の編成・実施・評価の改善や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた自立活動の指導」について、を学校で実践したい	3.6	3.9
No.4、5、6の評価平均		3.6	3.8

(イ) 効果的な ICT 活用講座（基礎）（研修会）の実施

日 程：令和4年7月6日（水）10:00～16:00

会 場：兵庫県立教育研修所2階第3総合実習室

参加者数：59人

月 日	タイトル	概 要
7月6日	幼児児童生徒の自発的・主体的な学びを引き出す効果的な ICT 活用	講義では、障害のある子どもたちに成功体験を積ませる ICT 活用の在り方を学ぶ。演習では、iPad に標準搭載された Keynote を用いて、受講者が授業で活用できる説明動画の作成を行う。

(ウ) 効果的な ICT 活用講座（実践）（研修会）の実施

日 程：令和4年6月27日（月）10:00～16:00

会 場：兵庫県学校厚生会館3階大会議室

参加者数：34人

月 日	タイトル	概 要
6月27日	個別の課題に応じた指導・支援と ICT 活用	障害の特性に応じた ICT を活用した合理的配慮の提供や、指導上の配慮事項などを学び、タブレット型端末のアクセシビリティ機能などを実践的に学ぶ。

## 指標別受講者評価 <効果的な ICT 活用講座(基礎、実践)>

(4:あてはまる、3:おおむねあてはまる、2:あまりあてはまらない、1:あてはまらない)

No.	受講者評価の視点	【基礎】 評価平均	【実践】 評価平均
1	「Society5.0時代を生きていく児童生徒の発達の段階に応じた情報活用能力を育成するための指導を行うことができる」に関する資質向上に役立つ内容であった	3.7	3.7
2	「個別学習や協同学習等、様々な場面に応じて、効果的に ICT を活用することができる」に関する資質向上に役立つ内容であった	3.7	3.8
3	「特別な配慮を必要とする児童生徒の学びの過程において生じる困難さに対応できる」に関する資質向上に役立つ内容であった	3.7	3.9
4	教員の指導力の向上を図ることで、幼児児童生徒が学ぶ楽しさを実現するための ICT を活用した、体験活動やわかる授業づくりにつながることに、イメージができた		3.6
5	特別支援教育における個に応じた ICT の効果的な活用や指導上の留意点、環境整備についての理解が深まった	3.7	3.7
6	本日の研修で学んだ幼児児童生徒の自発的・主体的な学びを引き出すよう効果的な ICT 活用について学校で実践したい	3.8	3.8
No.4、5、6の評価平均		3.8	3.7

### 【研究指定校の取組】

#### 兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校

##### 【地域の小中学校における個別の指導計画作成のための支援】

- 1 支援期間：令和4年5月～令和5年1月
- 2 使用した遠隔システム：Google Meet
- 3 支援内容：
  - <遠隔による研修会> ※対面研修は別途実施
    - 1) 自立活動における実態把握の在り方
    - 2) 自立活動の6区分から見た中心的課題の導き出し方
    - 3) 評価について



遠隔による研修の様子

##### <遠隔による個別相談>

- 1) 担任との懇談
- 2) 児童との面談
- 3) 特別支援学級担任、通級指導担当教員、特別支援教育コーディネーター対象の、「個別の指導計画の作成についての困り」アンケート調査 (Google Forms)
- 4 支援体制
  - ・姫路市内4つのセンター校(特別支援学校)の特別支援教育コーディネーターによる支援チームを結成し、適宜遠隔及び対面でミーティングを実施し、研修を担当。
  - ・姫路市教育委員会事務局特別支援教育担当課との連携。
  - ・小・中学校の特別支援教育担当校長との連携。

成 果	課 題
・遠隔研修の開催によって、遠方の学校の教員の自主研修への参加者が増えた。	・研修参加の有無によって、個別の指導計画作成に関する教員の理解度に差が生じる。
・オンラインアンケートにより、困っていることが具体的に把握でき、焦点化した内容の研修をタイムリーに行うことができた。	・個人差を埋めるためのシステムづくりやマニュアルづくりが求められる。
・本校のホームページに自立活動チェックリストや個別の指導計画作成手順シートなどのツールをアップし、自由にダウンロードして活用してもらえるようになった。	・効果的かつ効率的に活用できるマニュアルが必要である（現在、姫路市教育委員会の特別支援教育担当課と協議中である）。

(2) 特別支援学校及び特別支援学級における自立活動や、通級による指導について、遠隔による実施を含めた指導（対面と遠隔を組み合わせた指導等）及び評価の在り方について

【ICT を活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業研究発表会の実施】

授業参観として指導の様子を録画したものをテレビ会議システムで上映し、会場での ICT 活用体験の様子も合わせて同時配信を行った。伝えたい内容や方法を工夫しながら、遠隔システムを併用したことで、何の目的で ICT を活用するかという視点がより明確になった。

以下に、実施状況や概要を示す。

日 程：令和4年12月21日（水）9:30～12:30

会 場：兵庫県立神戸特別支援学校

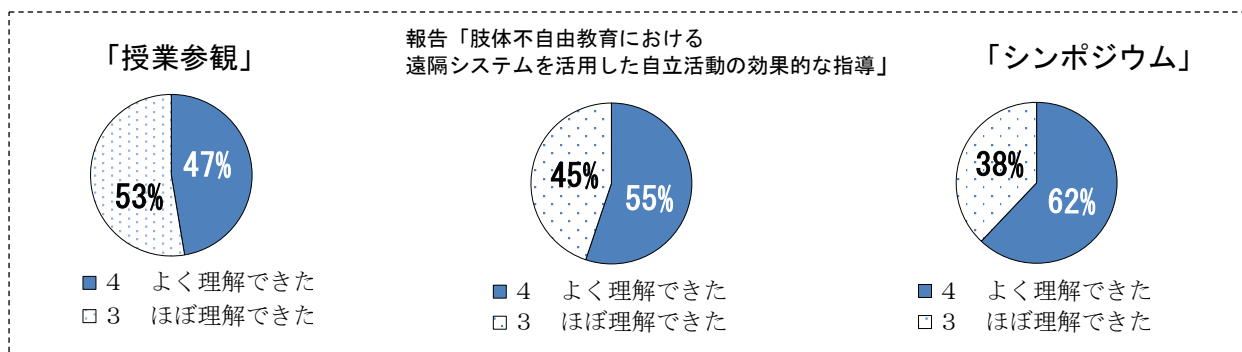
参加者数：105人（会場10名、会場校職員と事務局11名、オンライン84名）

月 日	タイトル	概 要
12月21日	特別支援学校における自立活動の実践（実践発表）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県立神戸特別支援学校授業参観（録画）</li> <li>「児童生徒の実態に応じた ICT を活用した自立活動の取組」</li> <li>・報告</li> <li>「肢体不自由教育における遠隔システムを活用した自立活動の効果的な指導」</li> <li>・パネルディスカッション</li> <li>「遠隔による指導を効果的に活用した自立活動及び関係者の連携等について」</li> </ul> <p>コーディネーター：丹羽登（関西学院大学教授）            パネリスト：小川修史（兵庫教育大学院准教授）〈研究指定校・代表3校〉            県立あわじ・姫路聴覚・神戸特別支援学校</p>

<受講者の声から>

- ・ICTの可能性や利点、テクノロジーの仕組みや環境を知ることが大切である。そしてハード面の整備に加え、教員の技術向上も合わせて進めていきたい【中学校教員】。
- ・「ICT活用は、対面の置き換えではない」と改めて感じた。ICT活用に適している場面、アナログな方法での実施が望ましい場面があるということを考え、どの場面で適しているかを検討していく研修会があれば参加したい【特別支援学校教員】。
- ・ICT活用時にトラブルを多く経験して苦手意識を持ち、事前の準備が大変だというマイナスの感情があったが、関係者間で課題を共有し対応策を考えることが、子どもたちにとっても、大きな学びになると考える【市教育委員会指導主事】。

受講者評価 <ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業研究発表会>  
(4:よく理解できた、3:ほぼ理解できた、2:あまり理解できなかった、1:理解できなかった)



オンライン発表の画面



会場での視線入力装置の体験とオンライン配信



パネルディスカッション会場とオンライン配信



- (3) 遠隔でのやりとりを含めた、外部の専門家や在籍学級担任（他校含む）等との連携の在り方について（※研究指定校の取組は「ひょうご つながる e-book」（外部サイト）参照

【県外視察（岡山県健康の森学園支援学校）】

日 程：令和4年10月13日（木）9：30～12：00

視 察 先：岡山県健康の森学園支援学校

視察人数：7人（兵庫県教育委員会事務局2人、研究指定校教員5人）

趣 旨：遠隔システムを利用した自立活動の指導や教育相談等の工夫を学び、本県内の教職員のICT活用指導力の向上を図る。

（成果）

児童生徒と教員が積極的にICT活用に取り組む姿から、日常的にICT活用していくことの効果を学ぶことができた。ICT活用推進のポイントを、次の5点に整理した。

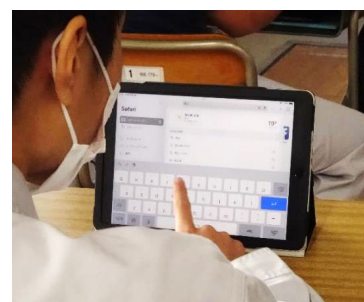
- 1 タブレット型端末をいつでも使えるようにしておく
- 2 簡単なことでも、タブレット型端末を使用する場面を設ける  
（子どもたちの文房具としてのICT活用）
- 3 リモートで児童生徒がタブレット型端末を活用する場面を増やす
- 4 タブレット型端末やパソコンからの指示で動く周辺機器を充実させる
- 5 校務に積極的にICTを取り入れ、教職員が便利さを実感することで、教職員の学びにつながる



電子黒板の活用



作業学習の個人目標決定



インターネット検索

【ひょうご つながる e-bookの作成】

各研究指定校の取組や「ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会議」、「ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業研究発表会」の成果等ととりまとめるとともに、自立活動やICTに関する参考資料や実践事例、研修動画、相談機関などの情報を集約・一元化したものとして、ホームページ形式の「ひょうごつながる-ebook」を作成した。

URL <https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/sho-bo/NC3/>



「ひょうごつながる e-book」の公開に当たっては、チラシを作成し、各種会議・研修会等で配布し紹介するなどして周知するとともに、活用を啓発していくことで、幼・小・中・高・特別支援学校等における教員の ICT 活用による自立活動の指導力や専門性の向上に資する。

啓発チラシ（表）

啓発チラシ（裏）

「ひょうごつながる e-book」

「学びたい」ページ

「使いたい」ページ

「相談したい」ページ

「事業報告」ページ



## 5. 今後の課題と対応

ICTを活用した自立活動の指導の効果的な在り方調査研究事業において実施した研修（特別支援学校自立活動リーダー育成講座、効果的なICT活用講座など）や各研究指定校における取組については、教員の受講ニーズや実践による効果も高いことから、本事業の終了後も引き続き継続実施するとともに、各学校においてその成果の共有を図っていく。

また、本事業の令和4年度の成果物として新たに作成した「ひょうご つながる e-book」については、定期的に点検するとともに、国のICT活用等に関する動向に注視し、最新の情報を掲載・更新していく。また兵庫県内をはじめとする特別支援学校等における効果的な実践事例についても、定期的に更新をしていくことで、内容の充実を図っていく。

## 6. 問合せ先

組織名：兵庫県教育委員会事務局

担当部署：特別支援教育課